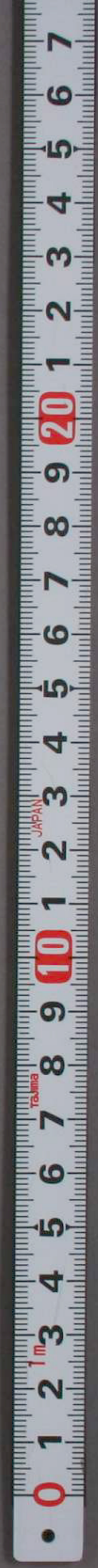
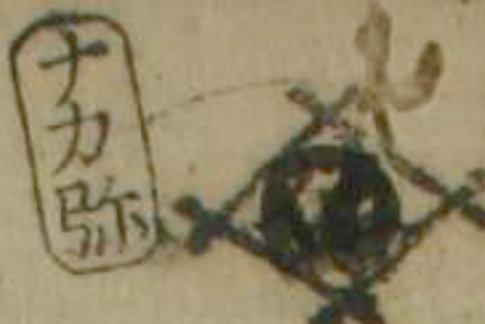


ル 4
3540
6



凡 4
3540
6



河内名所圖會卷之六

讚良郡

慈眼寺

本堂 羅漢堂

阿彌陀堂 藥師堂

牛頭天王

太子堂

駒山

深野池

龍間寺

龍光寺

菴間川

楠正行墓

長歌碑

和田源秀墓

雁塚

國中神社

清滝嶺

清滝溪

龍尾寺

須波麻神社

御机神社

飯盛山

飯盛山城

水室址

忍岡

津鉾神社

高宮神社

大杜祖神社

細屋神社

秦氏墳

鍛冶行綱宅址

茨田郡

度屋川

徳菴川

高瀬川

高瀬淀

高瀬堤

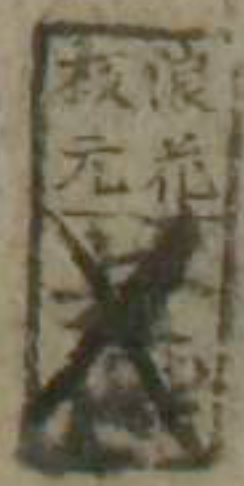
高瀬神社

常稱寺

石塔墳

らぶらぶ
高瀬堤

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏贈



彫工井上治氏

堤根神社

名産糟葉

大窪莊中西家

神寶

菅相寺

大歳祠

古川

蹠陀川

龍光寺

意賀美神社

伊加賀

牧方故城

西本願寺御坊

監船所

野口

三社権現祠

佐太

來迎寺

茨田池

絶間池

蹠陀池

光善寺

百濟王女墓

山崎院趾

牛頭天王祠

鷹塚山

名産蓮

勿入淵

白山祠

佐太天満宮

茨田故堤

杉子絶間趾

蹠陀山

大塚

宦女塚

牧方驛

萬年寺

蔵ヶ谷

緋瓜

守口驛

津島郡神社

文祿堤

供御領

蛇池

蹠陀山天満宮

三ツ井

膳塚

御榮屋

東本願寺御坊

牧方渡口

交野郡

巖船

住吉祠

星石

獅子窟寺

觀音寺

氷室趾

梅塚

平塚

觀音寺

穗谷川

博士王仁墓

鮎返滝

八幡宮

蒙盆女趾

須弥寺

私部故城

本塚

元寺瀧

津田故城

尊延寺

見山

妙見山

旗立松

明光寺

嬰兒山

光通寺

中塚

交野山

三宮

杉妙泉

小山墓

妙見祠

星田尊蹟

本寺掛堂

傍尔川

長寶寺

滿塚

機物祠

新見池

明尾寺

安樂寺



逐日の表を不棄
 難波人の手に為
 春乃興う
 海松ゆくおさ乃
 乃々々々々々々
 乃々々々々々々

五久まを
 寒一
 日くれの
 山梅

来山

山田池
 鳥立原
 百海王祠
 郊祀壇廢蹟
 渚杜
 久須々美神社
 葛葉野
 继繩別莊
 百濟王廢仲

池
 百重原
 中宮池
 波瀲院古蹟
 渚岡
 二之宮
 樟葉宮
 弥勤寺址
 文黑磨

天河
 車冢
 宇久木塚
 交野神社
 舟橋川
 楠葉渡口
 帳掛松
 黄金橋

文聖原
 和田寺
 長者故居
 一之宮碑
 片足羽川
 釋迦堂
 百濟王敬福
 洞ヶ嶺

讚良郡

東と和州平郡郡の界小至る西と淡田郡の界小至る南と河内郡郡の界小至る北と交野郡の界小至る

福聚山慈眼寺

聖徳村小あり
禪宗曹洞

本尊十一面観音

唐作長三尺六寸又三十三所觀音像に口忍の像

藥師堂

本堂の南

阿弥陀堂

某昨堂の傍小あり

羅漢堂

十六羅漢四天王

鐘堂

法者の傍

支尚山と南天生波羅奈國大悲の聖蹟を摸して古刹と傳

半半既小源一今小至る寺前乃澤人吟ん波羅奈澤

少の惜哉中古以来傳記喪ひく只郷童の口碑証と伝

故小開闢の年代未實詳る凡大悲の像も何人の跡あり

寺宇の権輿も不明る凡拈一條院浄宇小拈別難波にせん

渡口小住一と由さくの縁客飯食も其女あり世小くを

いは君とらふあり付沈病小罹く醫療の驗あり小か一常小

聞ると和州初瀬寺の親母靈應殊小勝とせせぬ小既小かの地あり

悉茲一々懇小禱一七日満願の時靈夢感む瑞表る焉俗

未々曰河別野崎福聚山と我小異なり其所の大悲小懇

求せば所願空一かたは妓女愛覺く歡喜一直小房くば小

未々本尊致致禮七晝夜小満ぬれを忽病癒治金れられん

傳聞く四本の緇素遠村近郷と小群れ又野崎を去る

二里許あり御供田中名氏るものも尚寺の設小宛ぬる

厥后 龜山帝の朝小権大僧都實慶尚小寺職して弘長

元年小寺記を書り又 伏見院の時時沙門入蓮より小

徑一々衰弊致く終一之力を優婆塞泰成小勅くを修

せし時小之石塔婆分小存れ又其後弘長八年松永

久秀志貴棟小籠りて近隣勅札の時佛圖を焚小罹る

灰燼中形る佛本尊實慶堂寺記の遺れり其より今の

梅の花見
舟の
親善
盆踊
又律を
ほろわねく
まゝもあつ
みるまの
風興

舟
舟
遠
遠



龍尾寺



如く再營あり其を毎級經とて櫻花白く頃秋を紅きし
 て山之錦ありふ浪花津の老少あふ小群ありあると川舟り
 掉さして道ゆく人少言葉歌ひてく情さる事多し是と此壽春と云

牛頭天王社 母傳山小あり 生土神とん

太子堂 日村あり聖徳太子尊像あり本願寺宗派

駒山 諸本森あり

深野池 むり聖徳太子の管内小あり村境廣きなり今埋く田圃也

龍間寺 龍超山と号ん

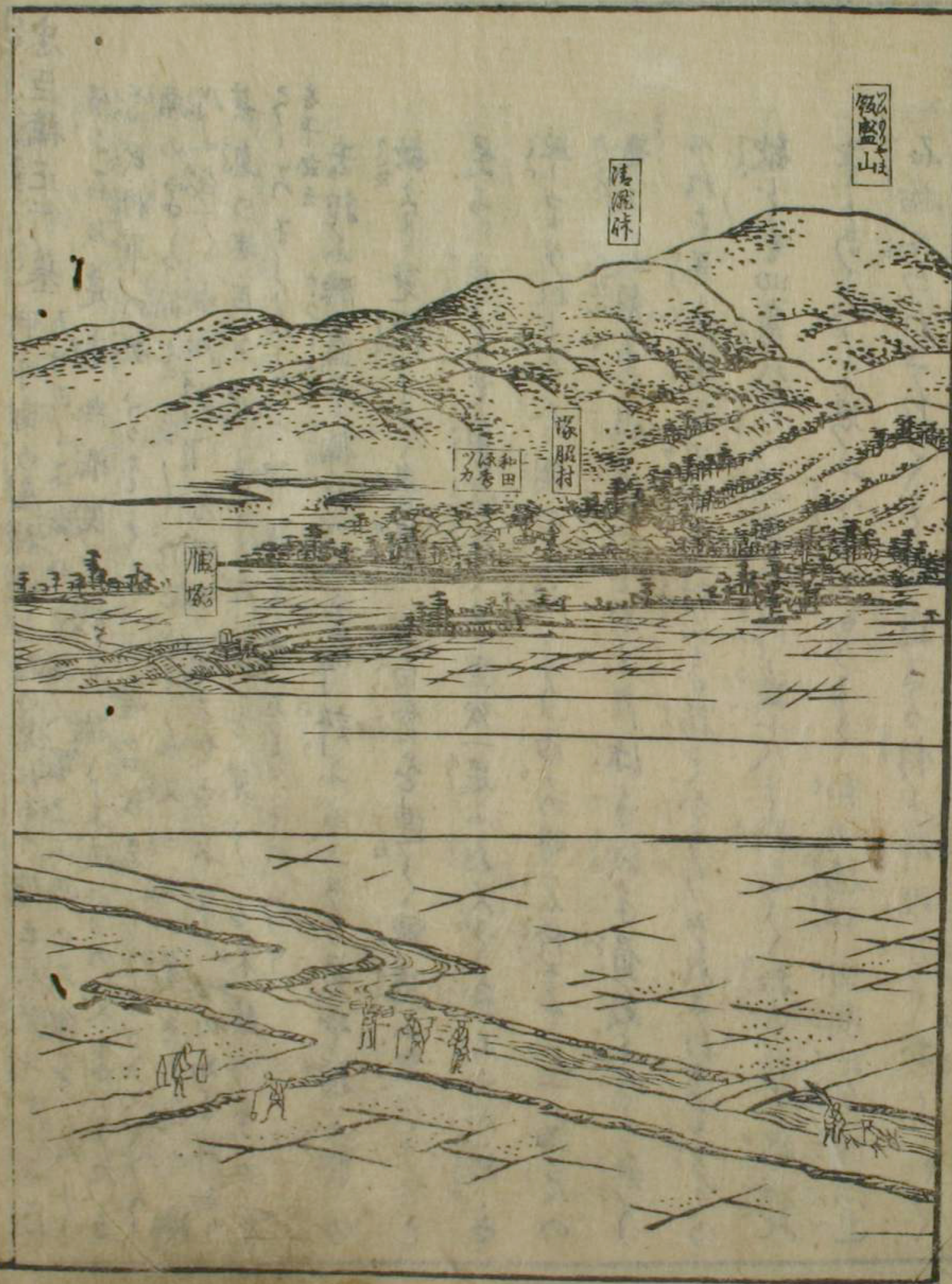
本尊千手觀音 長貳尺五寸什寶小 佛舍利あり

龍光寺 然同經寺村あり

本尊十一面觀音 秘佛當寺也 敏達帝の御基ありと云 伽藍巍々

兵火更々類廢し 本尊が州 本安堂とせし 元禄年中僧

竜岡川 川より一名寺川と云



忠臣楠正行墓

甲午南の属村の東にあり傳云正平は年四月
傳云石成建南無權現と傳云法入上小権の文書なりと
傳云氏將軍の欲するをその姓を名を思ひしと云ふなり
南の字を楠を表したる人父正成の墓あり揚州
川に在り水戸黄門老園卿建ふせぬ幸ある所のあり
其息の忠臣を賞す碑を建ふるを不顧の至りし
るいりありん人々を碑を建ふるなり

去程不降直中楠が同去所許小成小なり是皆頼小所の
故よと見沈し魯陽二夜白骨を連て韓構小我なりと
是あり過し一セ勇将ん千里成一足小死ん人々心計と
早にわれども今朝の已別より申の時を終りて二千餘夜の
我小息絶氣疲るの形に汝手淡手負ぬものも無り
われを馬武者を追攻て討ぶる相ぞかりりされれども多々の
敵ども四角八方へ追散り降直七十騎ありしを何程に
幸うありんと思ふ心をちりりし和國捕野田園地良園河
石揃丸われれんとせ進る符小辨理なく愈られり

師直已小引色小見入り交小九圍の役人須々本四郎とて
矢はさ早三人張小十三本二伏百歩小柳の葉成りて百矢と
いひぬ程の射を此れなり人の解捨る能竹尻葛巻と捲抱く
計取集く雨の降りぬ矢坪成捲く射りたり一日暮暗るる
物具るれ中々當る矢遠深小まぬる每り以て楠以所眉間と
ふえのそを射られぬ技程の氣力もかし正行を左右を膝に
三所右の頬先左の眉尻深小射られぬ其矢野の霜小臥る
うかく折愈されぬ矢さくまなき働うは其外三千餘人の兵も
三節四節射られぬものも無りなれ今を是を以て缺の子小のふ
かしく楠見身者違へ北控小卧れを自餘の兵二千二人思々小腹控
切て上り上小重に脚を和回新發意いししは終りたりん降直
兵の中不交り武蔵守小是遠く死んと近付及身をば拒河月
より降参りしりなる湯濱本宮を即左衛門小云及侍者これを

見知りし和田ヶ後へ立回し諸膝切く倒る所を走りて頸に斬人
をりし和田新殺志未死酒をさけめくある大の眼を見用く
湯濱本宮を丁と睨む其眼終小塞むと湯濱小首死せ
取られぬ大剛の者小睨まねく湯濱臆してや有らん其日より
病付く身心悩れしるが仰るは和田々怒る顔を見見へ俯
新發意を睨める眼地不見く怒靈五體を責しく軍散
して七日を申小湯濱あが死せ死小は内大塚掃跡助
子と負しりけるが挿ふ死跡小あがりしとて放馬のあり
乃内小打棄く還ふ落途よりなる和田挿討れりやと聞
只一騎馳歸り大勢の中へ入る切死小死せ死小死れ

○吊桶帶刀君之古墓歌 洛東老樵閑田廬蒿蹊述

ちりぬ実乃 父のとら屋 けしそ葉の ちりぬ実乃 ちりぬ実乃
かゝこれもよ 妻めりききの 湯代もよを かのが代もよ ぬこよをうけて

あけさゆみ とうほくつ ぬらふゆふ けふまろりし うほひとま
ねくの死小 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃
風乃やまり きて中を 切形しさい まほ荒野れ ちりぬ実乃
ひらむんま かしをねく 時をまろりし あらぬ世 ちりぬ実乃
かくまがり 窓れりてきて 後ろく人 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃
まてい換金と ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃
とくせも母小 ねがふふた ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃
ふさえあけい ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃
ちりぬ実乃の ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃
ちりぬ実乃の ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃
母は人 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃 ちりぬ実乃
成就の時節を候りし



和田源秀墓 甲可南の内塚 服村森下氏の地あり 和田新彦意を

雁塚 中野村田圃の中あり 寛延二年

傳云文明の頃は里小狩人あり 郡原にゆく一朝雄鳥此處に射ふ
即それを見ざる小頭か 狩人小腰に三巻く 其後一葉と
見たり 又は初小射捕り 雄鳥の首を抱き 此を痛く 捕り 翼の中
一葉を 雄の首より 首の抱き 此を痛く 捕り 翼の中
狐感 雄の首より 首の抱き 此を痛く 捕り 翼の中
吊ひ 雄の首より 首の抱き 此を痛く 捕り 翼の中
ち 小籠 籠 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚
を 茲この 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚 鷹塚

國中神社 中野村小あり 延喜式出 今天神と移す

清瀧川 甲可南の東にあり 山中小巨石多く 経路小變り 時々

龍尾寺 甲可南の属村 鷹塚村小あり

卒号十一面觀音 春日の他長三三寸 初々行基の開基と云ふ

須波麻神社 秋金觀延喜式出 中野内村小あり

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

御机神社 中野村の属邑 大上小あり 延喜式出

飯盛山 北條村の東にあり 山頂圓小 して 秀榮 捕 森 齋 しく 取

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

飯盛山城 建武の末 信濃法 小籠 捕心成 攻くれば 取す

津梓神社 是山の属村 鷹塚村小あり 延喜式出

夫本

是の山にふたつとらつて 蘇久ひつと 志はひの志不味らん

法印覺寛

談人云ん

茨田郡

高宮神社 高文村あり延喜式曰大月次新嘗三代實祿云

高宮大社祖神社 高宮村の東にあり

細屋神社 磐延喜式小茂田郡小入を秦村小あり今天神と稱す

秦氏墳 秦村小あり土人秦川勝の塚と云ふ

鍛冶秦行綱宅址 秦村小あり相傳後鳥羽上皇諸別の名通を

茨田郡 東に瀨良郡の界小至り西に淀川を界小隔り南を

寢屋川 源交野郡星田山の東より流きて寢屋村の東に流きて又

德菴川 寢屋川の支流寢屋村小至りて德菴川といひ塘公德菴

高瀬川 一説に高瀬神社の麓に瀨良あり是と云ふ川といふ

見りてせむ末せむる高瀬川といふ川あり又月毎の川

源深光

高瀬淀 日所を

高瀬里 世本村馬場村

高瀬神社 世本馬場支村の生土社といふ例を九月九日

常備寺 世本村小あり高瀬と号す

本尊阿弥陀佛 長八寸 藥師佛 長八寸計

石塔塚 詳なり

高瀬川

高瀬川

高瀬川

高瀬川

高瀬川

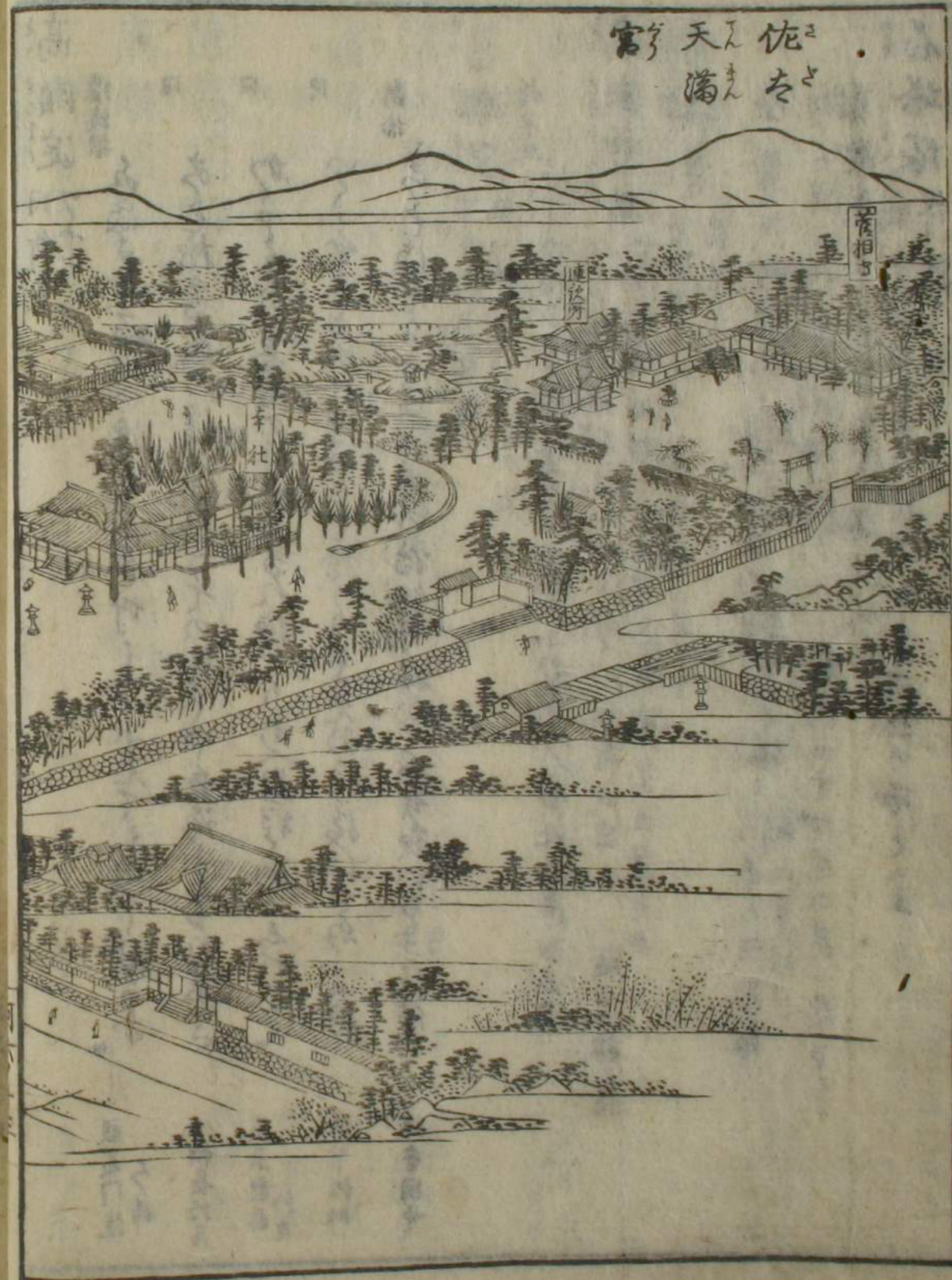
高瀬川

高瀬川

高瀬川

高瀬川

高瀬川



佐太天神
馬場前



堤根神社 常祢寺村小あり延喜式出今天満宮と稱凡は色常祢
例皇九月十五日傍小神宮寺あり

野口 常祢寺の隣村
夫本

新六 志々野の里不富のて道の芝生小今昔終く川 信實
夫本 志々野の里不富のて道の芝生小今昔終く川 信實

勿入淵 諸福村小あり土人内町淵とよ又日村小千河淵とよ
千首 はれかゝい身とをのめんとむの女のそ終これ月上ありその淵 西尹

守口驛 接刺東生那の界また西南十二町あり山列の界橋中金橋より
は驛をて通計五里十二町とを系御道とよ

名産糟菜 守口村よりある長葉蕨茄子此刀豆の糸を多く糟菜
て四方小貨ふくれを守口驛せり

三社権現祠 下橋八重二村の堺あり
は色の生土神とよ

白山権現祠 六番村の中小あり相屋新田の神と畜村と三妻村
は妻村等の生土神とよ例皇九月廿日

津島郡神社 登敷延喜式出金田村小あり嘉祥三年十一月從
五位下弘授く畜村と野馬の村と共小生土神とよ

大窪社申西家大窪社あり中野四郎範顯の後裔あり其後尾張亞細源義

直御清由緒あり勤仕を代々大坂の尾刈邸令せり

佐村の名あり七妻村八妻村九妻村北十妻村三妻村此妻村八妻村

十妻村は已上十一村を大庭莊とて軍勢隊伍を立る名あり

佐々天満宮佐々小河は所系街通河して茶店貨食家あり

祭神菅大臣所神本長尺伴社傳自他此地の生土神とて例祭

大自在天神六月十五日秋祭九月廿日卒社の類佐々天満

二品親王良尚親王小市好文天神卒社の右傍白文祠好文祠の傍

末社猶若愛宕山あり水神井筒後尾院門を所勅梅社系にあり又御製後水尾院所製の和舟瓜結り舟

家の風やふはるく神垣やをくはく梅もあはれ

竹内御門主良尚親王所副書曰

河内佐々宮に菅神の廟あり志うれしくも近代社あり

祭奠の儀式も雅ありしと永井信州を守尚政朝臣再興也

れより社藤原氏棄てし者尊守と願ふの志なり

その頃

太上天皇百和香小梅乃折枝をくく尚政朝臣小孫ら

しと神の座小梅さく瑞籬のう人物とれとれ小梅さくの

淨製瓜尚政朝臣ふくくたふ小島納之内陣乃賣物を

賜し無何の業これ小島人されし神の徳いよくをく

かれは後あ登いよくあつてその彼御製此由瓜かれ

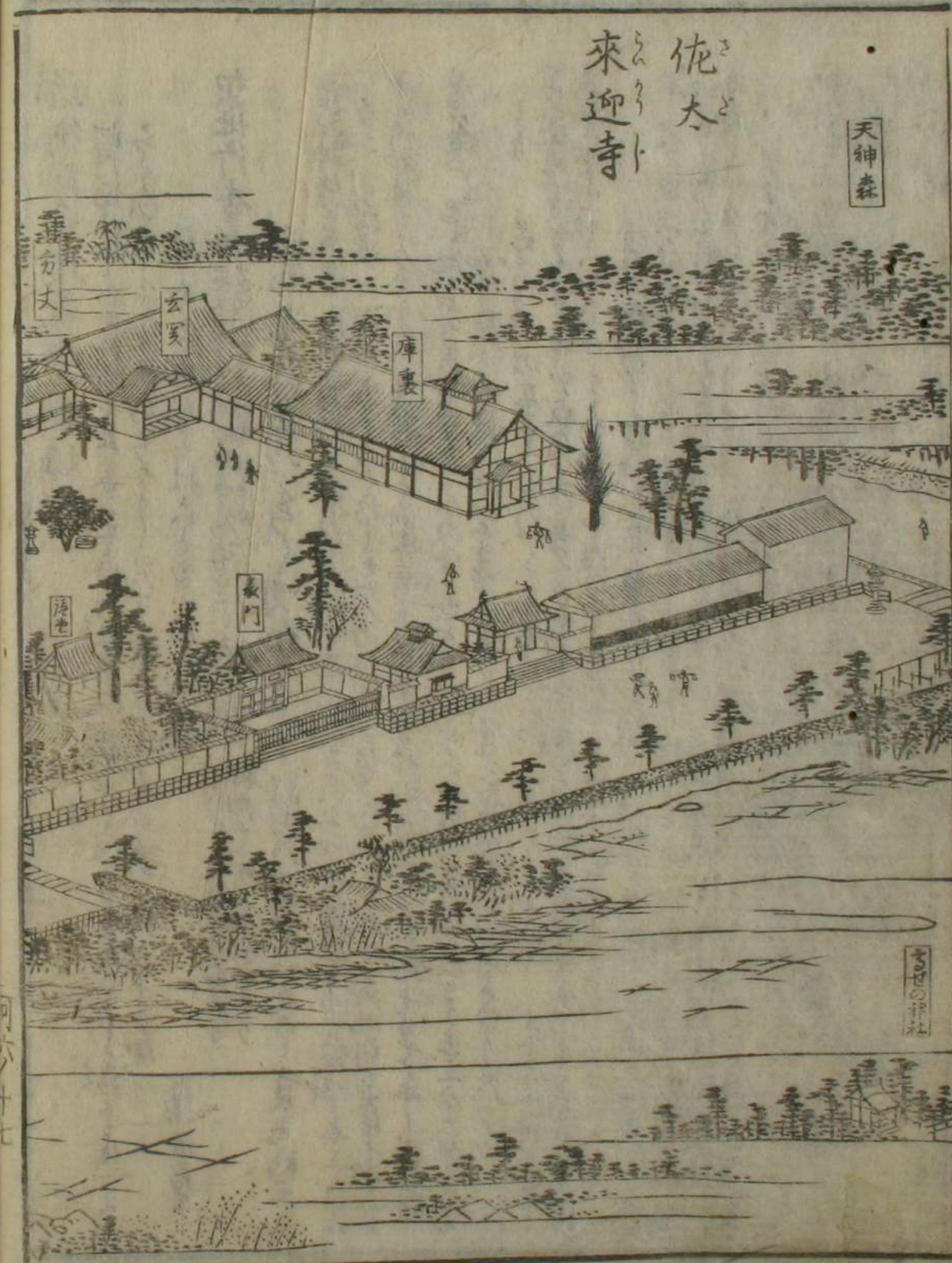
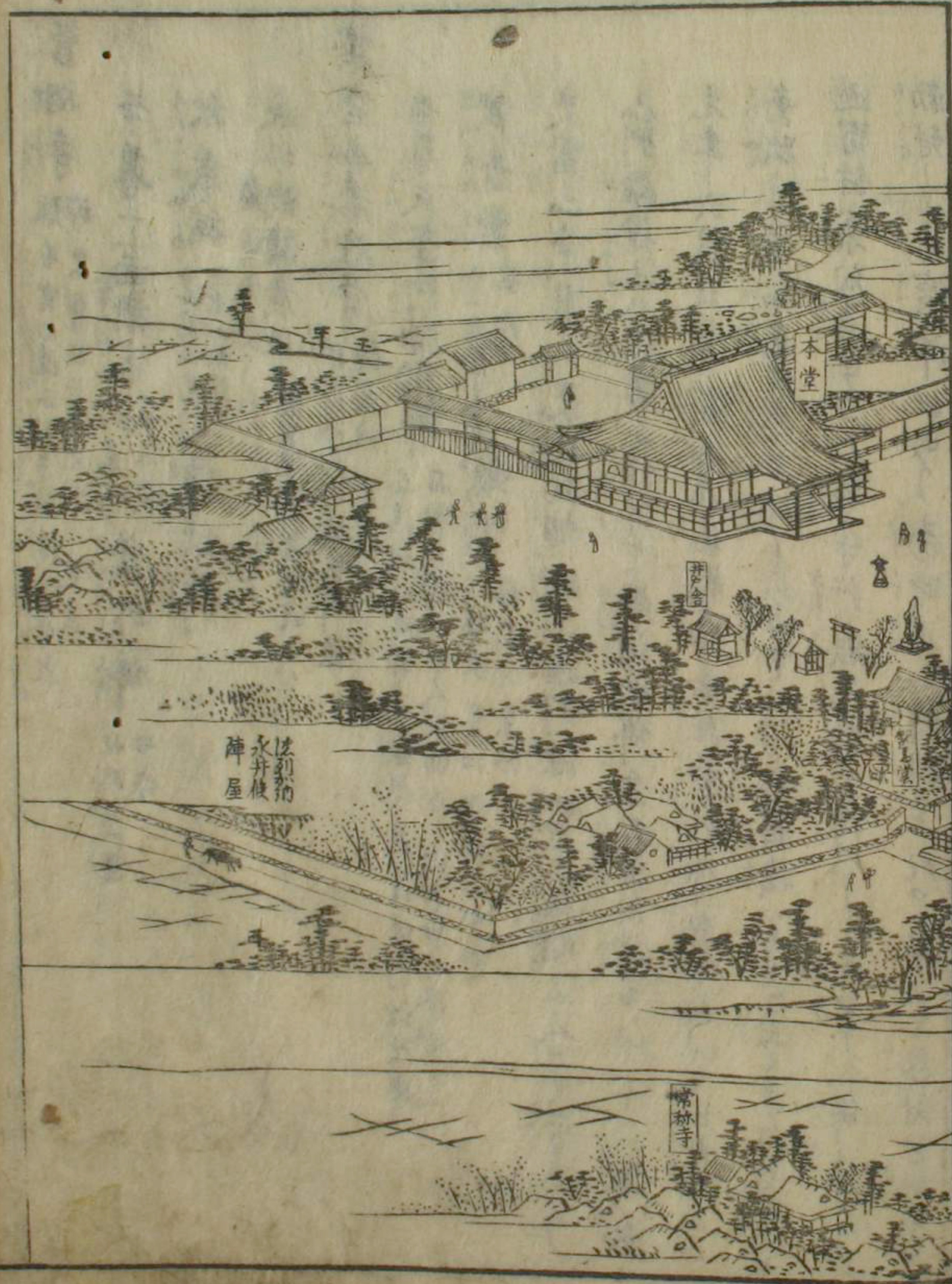
はくつたりし不局ふよりてやゆるをををいさし

をくしはくはくその雅

北野寺勢二品親王良尚書之

折當社の勅傳を年歴久遠あり其監觸ささるるは永徳

年中の社記を存し願后荒蕪して社額を神さび瑞籬もる



菅相寺 佐右宮の傍にあり興隆寺号れ

本尊十一面觀音 行基作 長三尺 藥師佛の作

秋葉祠 寺内あり 連秋所

永井尚庸彦碑 儒官富山野節持凡

紫雲山來迎寺 佐右宮あり 文念佛宗

本尊天筆阿彌陀佛 石清水八幡宮より感得 在座傍阿彌陀佛

觀音堂 十一面觀音 鎮守 八幡宮 星に相模大明神

夫當山本尊の來由伝聞不詳 深江里小法明上人にて聖あり

山別雄徳山八幡宮小詣して難通念佛宗弘通公禱ゆいし一廉永

元年六月廿三日我石清水別當善法寺に神勅ありて曰我は小

靈跡し多和光の塵小侍トするやいへども時機いまで至りされを空く

五百餘家なるをり大安寺行教法師不傳へて天筆の佛像今

勅封して寶庫にあり當時正小時撰至れ早く勅封を解く

汝より深江の法明法師不授今しや靈告ありては別當は此

奏聞し同一年七月十五日齋殿を印し法明上人不授今し

亦其其よりけ本尊の難通念佛宗の本尊とて善く海因と

弘通したる今の本尊これなり 檢別任吾那平野郷中大念佛寺

不授けゆふと縁起も大畧同文あり又大坂の八幡宮より法明上人

和泉國泉南郡法明より授け給ふ縁起あり其是非非なり又

其由致をり今に至りて泉列

文孫堤 苗郡の西流川の堤長サ二里許の川岸に土人云

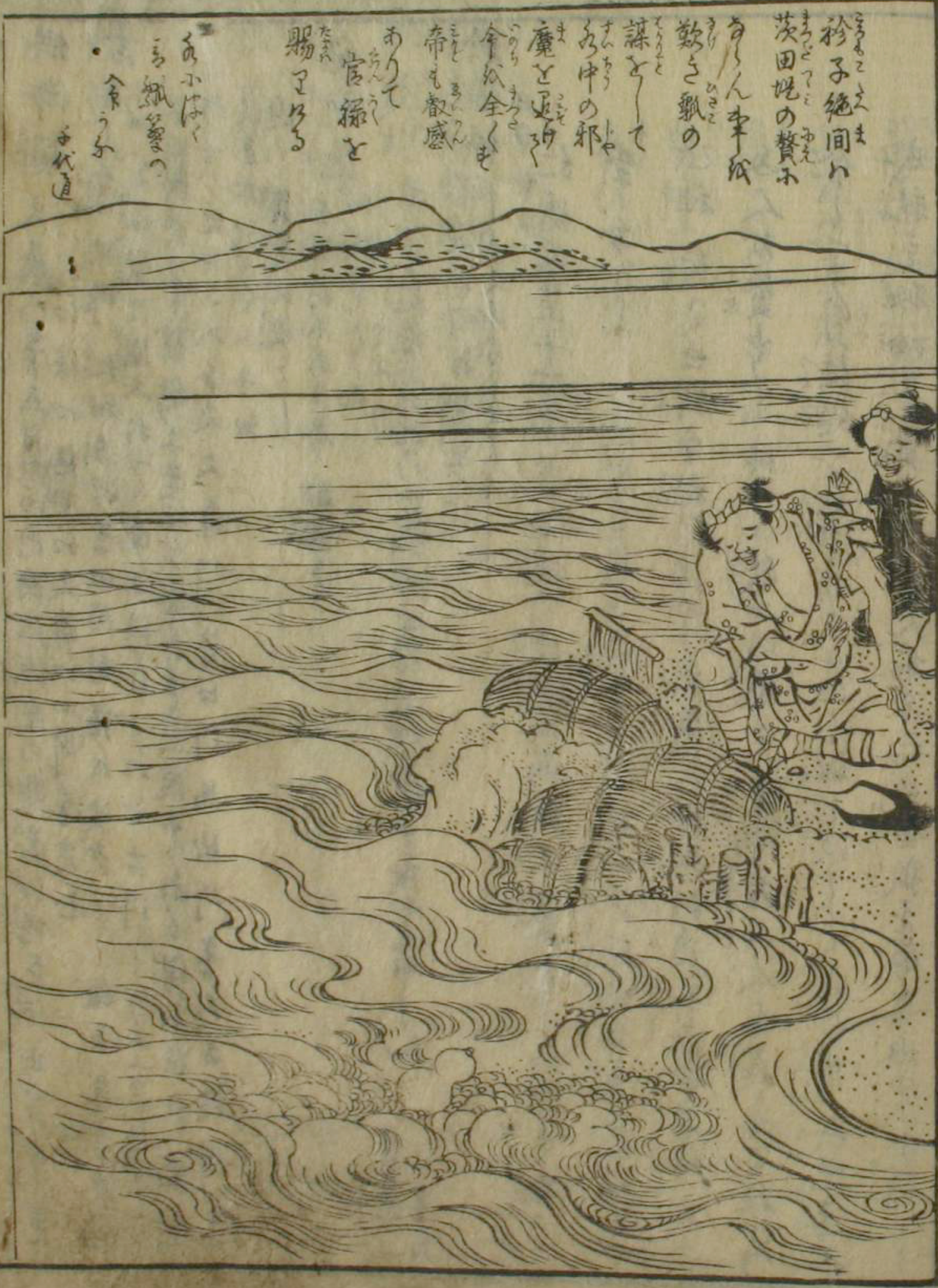
大歳神祠 大和村ありけ里の生土神とれ

茨田池 平池村ありけ里の池とれ

茨田故堤 日本紀云 仁徳天皇十一年 茨田堤築し

渡川の傍にありけ里の池とれ

終るに故堤なり



矜子絶間ハ
 茨田地ノ贅ハ
 有ハ人幸成
 歎々飄ノ
 謀トシテ
 舟中ノ邪
 魔ト退治
 今ハ全クモ
 帝モ歡感
 ありて
 官禄ト
 賜マラス
 余ハ
 子代道





天
滿
宮
之
山

磯
山



蹠だ山やま天てん滿まん宮ぐう 中振村蹠蹠山あり中振出口二村の生土神

祭神さいじん菅かん之の居い 神像長日尺許河内郡云長六尺五分

菅公須菅公須記記云

それより淀川尻淀川尻なりとて河瀬道河瀬道なりとて東ぬれもれまじぬ
おひらふ事事ひかんとしとまればあまの先先を神神勢勢あり候候とておくらに
まねく候候ゆこの花花とてしあてて初初る候候うれいおとてかんやうをくわ
ふも人人をとりぬる事事をさかしてとてあつて

立立海海ののりりみみややこれこれ去去来来よりよりびびひひををぬぬててあるある

まみとや乃乃國國ををははやの浦浦をかか今今難難波波の津津ををくくりりめめたたはは

ゆゆ小小井井ここははととるる舟舟のの敷敷ひひををたたああままととひひああままととんん

舟舟ににをを勢勢そそううままんんかかととししららせせくくののぬぬららてて飛飛ととままふ

ちちりりててみみ子子十十子子坤坤ワワワワととりり 下畧

柞柞苗苗社社のの神神傳傳云云神神像像をを昌昌泰泰日日年年菅菅公公決決うう 論遷志孫人時

京京跡跡小小殘殘一一おお小小神神息息女女 菅公須廣平記神神父父のの別別名名はは依依慈慈ひひおお神神跡跡成成

慕慕ひひここががれれ物物ととはは新新小小至至りり西西のの方方とと睡睡ゆゆいい意意慕慕れれくく蹠蹠蹠蹠一一おお小小

半半止止とと人人々々はは神神懸懸一一とと依依感感ととてと善善小小訓訓ととくくをを蹠蹠蹠蹠ととりりおお

文文選選ととるる蹠蹠蹠蹠とと訓訓トト唐唐詩詩のの註註小小失失足足親親あるあるとと足足ととりり又又いいららくく飛飛とと

訓訓をを巫巫相相既既不不配配不不ああくく荒荒ととああ后后上上天天神神通通自自在在あるあるとと意意慈慈中中

してしてゆゆ小小神神向向ありありてて座座上上のの梅梅樹樹松松ととりり自自るる像像とと二二巻巻小小彫彫刻刻

去去ののひひはは地地小小ととめめ神神息息女女のの神神とと依依をを慰慰先先形形見見ゆゆととりり其其上上りり諸諸人人

奇特奇特ののゆゆいいををねね一一尊尊設設法法ととりり遂遂不不近近郷郷二二十十四四五五村村生生土土神神也也中中先先

毎年毎年祭祭式式ををななすすととるる年年神神祭祭のの座座序序成成年年ひひ村村をを別別是是ととりり小小成成てて小小祠祠成成

營營てて例例祭祭勢勢半半小小ありありぬぬはは本本社社小小從從ふふ者者ととりり中中振振出出口口のの末末村村小小限限とと

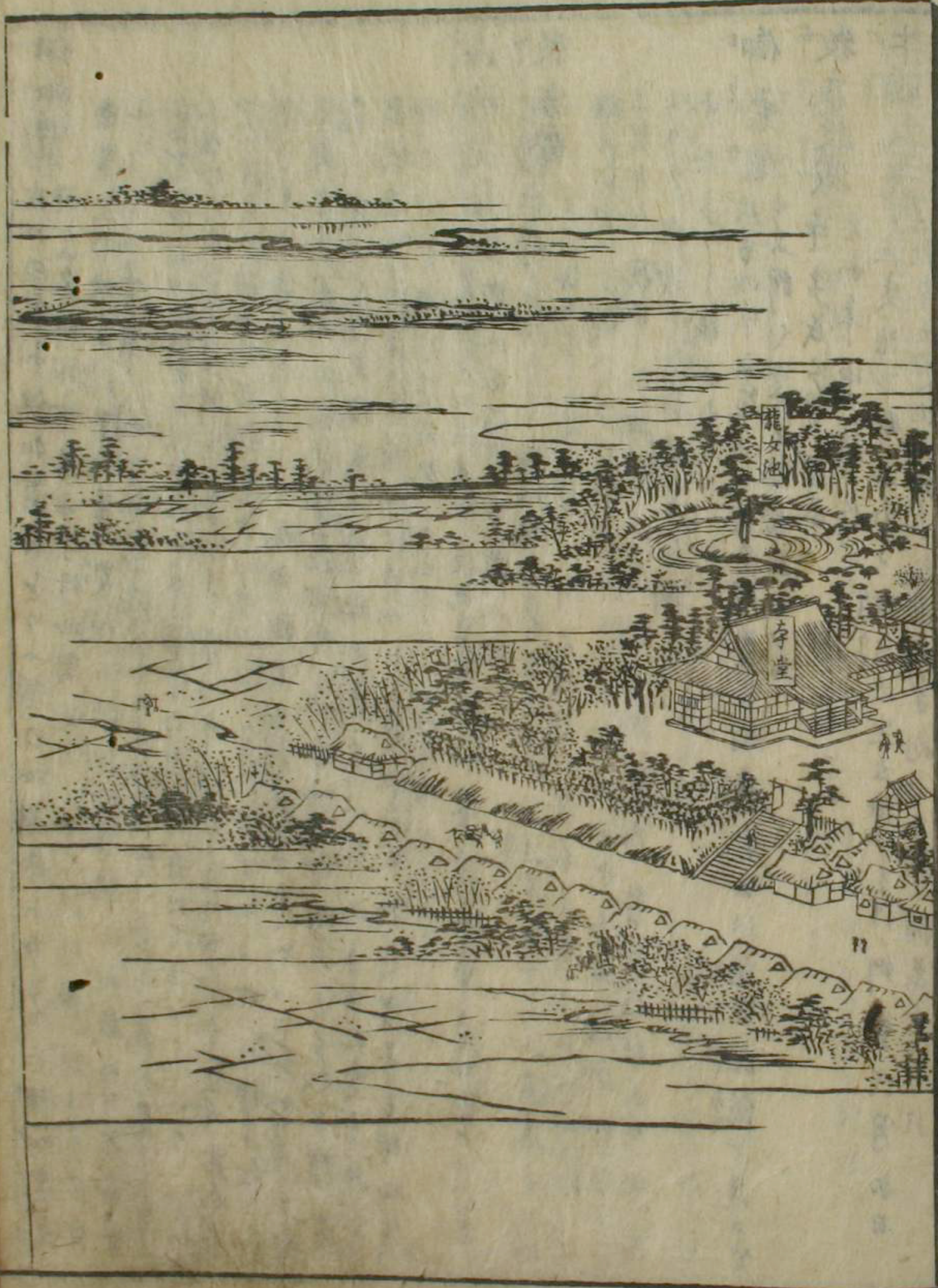
神神像像をを南南山山小小神神跡跡ととりりたたままととりり奇奇瑞瑞ああれれととりり小小殘殘一一をを内内庭庭長長のの末末大大

小小もも社社檀檀をを燒燒ととりりぬぬれれととりり神神像像恙恙かか一一依依之之諸諸人人蹠蹠蹠蹠天天滿滿宮宮故故社社とと

抄抄しし作作ととりりぬぬれれ

龍龍光光寺寺 蹠蹠天滿宮故社頭あり

真真言言宗宗



出口
光善寺

如

炎川

伊加賀

出口の東に伊加賀村とて一隅の地あり

類字名所和奇集より伊加賀の地あり

慈覺王の秋を引くは幸一契の勝地吐懐編

不云古今物名兼覽王 堀小あり

河内玉中あり一うけり日記に石山小あり

山吹の地ありとて所を記す

山濟院趾 郡の田二町を施入す

牧方驛 所より申傳へり

御葉屋 牧方の中より天正の頃豊左衛門

牛頭天王祠 三夫地下所あり

長松山萬年寺

真言宗 長松山萬年寺 真言宗

本尊十一面觀音

長八寸 藥師堂 長七寸八分

行者堂

觀音堂の傍あり

此地をむ

惟喬親王諸院小師

放生

放生の緒をわく

放生

放生の緒をわく

放生

放生の緒をわく

放生

放生の緒をわく

放生

放生の緒をわく

放生

放生の緒をわく

放生

放生の緒をわく

放生

放生の緒をわく

放生

放生の緒をわく

嘗て客を催て惠澤小興くわさる是三笠山春日神にぞ花去り
其後貞觀二年の春醍醐の聖寶を降る未だ慈をたふ伽藍
建營し且くわく萬年通寶の銅法を造らる則てわくわく
萬年寺を建し密法の特金と形し慈又貞觀十四年小天下疫癘
流行して國民多く喪ふ其時清和帝半頭天王の神璽を賜ふ
て疫の平金法はふく新しむ今此天王社これなり其より以前
弘法大師高野山修業の時けふふあり茶作佛安しと國家
平安法徳に由ふ又厥后一條院浄宇長保二年小諫議大臣齊
光の子出家し寂照法作を號し惠心信都の上足より惠心
台宗の同目二十七條を作して唐土の智禮法作小使明せんや
寂照小持より先渡唐形しむ明州の津小至り南湖の智禮小湯
て同論し其後此小流く重病孤受くた小苦惱を此時當ふの
大悲小平念祈ふ其救世觀音松上小ませ給ひ盡業の秘方と

授けぬ小即これ狐服をわ忽平念して淨朝を其靈方當
寺小傳來して諸人小施は今の混元丹これなり又長松を
寺前にありて今時まじく蒼々やして霜雪小冒これ
む千葉不朽の色と現をも亦靈場の奇物ととせられり
東本願寺坊自願成願生坊と云ふ

本尊阿彌陀佛佛佛の佛
長三尺五寸許
此寺の蓮上人八十一歳の時出産の季子法作推大坊都實從の宗
徒なり願真寺と号し幼名公九九九と云ふ天正年中兵少少後
教如上人再建す一處を旧地を所南へ院内小實從上人の古境あり
願真寺と系作小あり所流なり

西本願寺坊寂如上人の附自居浄坊と云ふ
本尊阿彌陀佛安阿流の
鷹塚山教如の東にあり孤峯獨秀ふり河橋の山川悉く
愛を荒しほく再埋葬を傳傳云むり惟喬親王意鷹を
藏ヶ谷意鷹山の傍ふあり傳之履中天皇浄時此所小宮庫を



萬年寺
牧方

牛頭山

觀音堂

東門坊

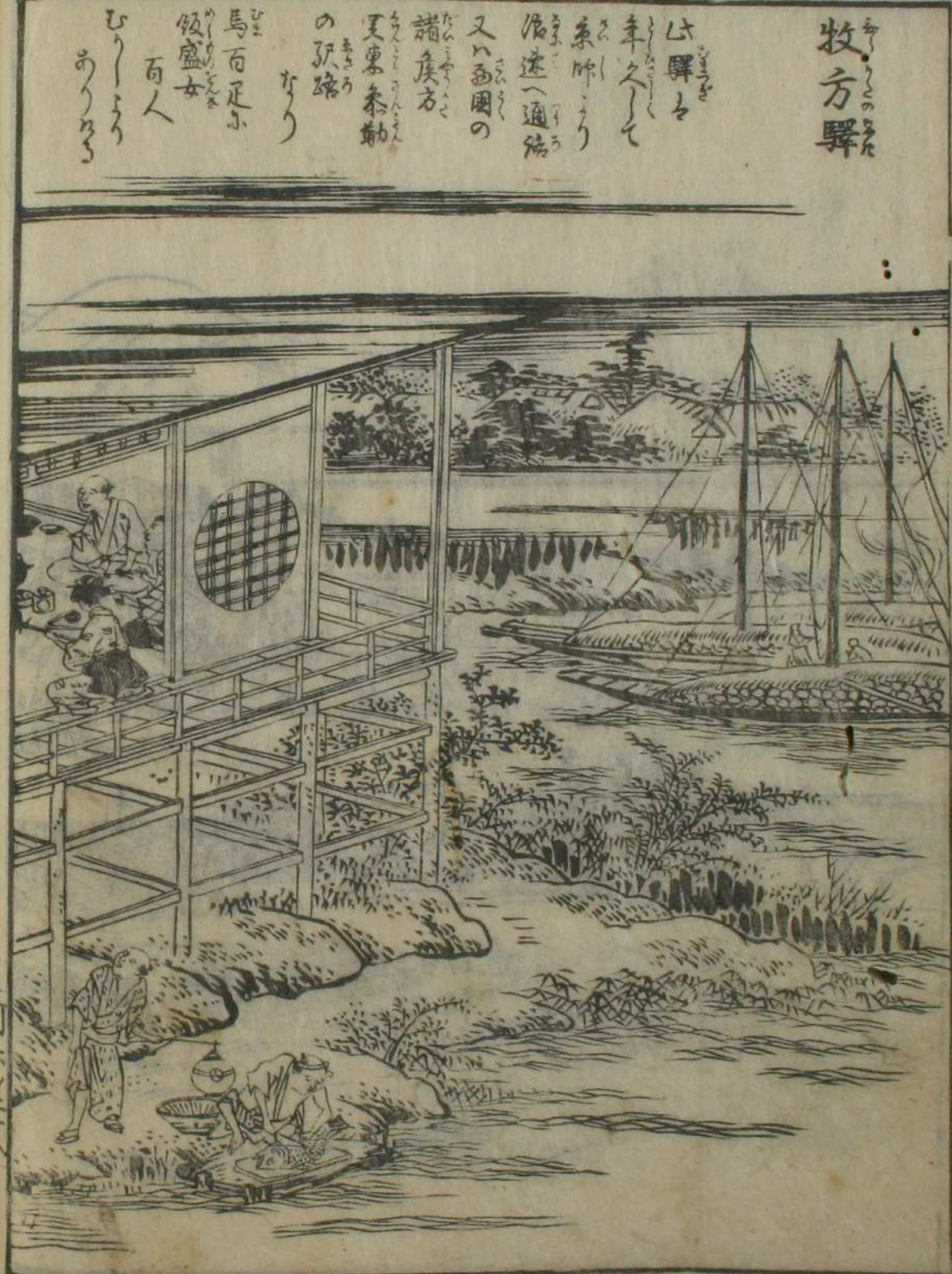
寺

西門坊

之入

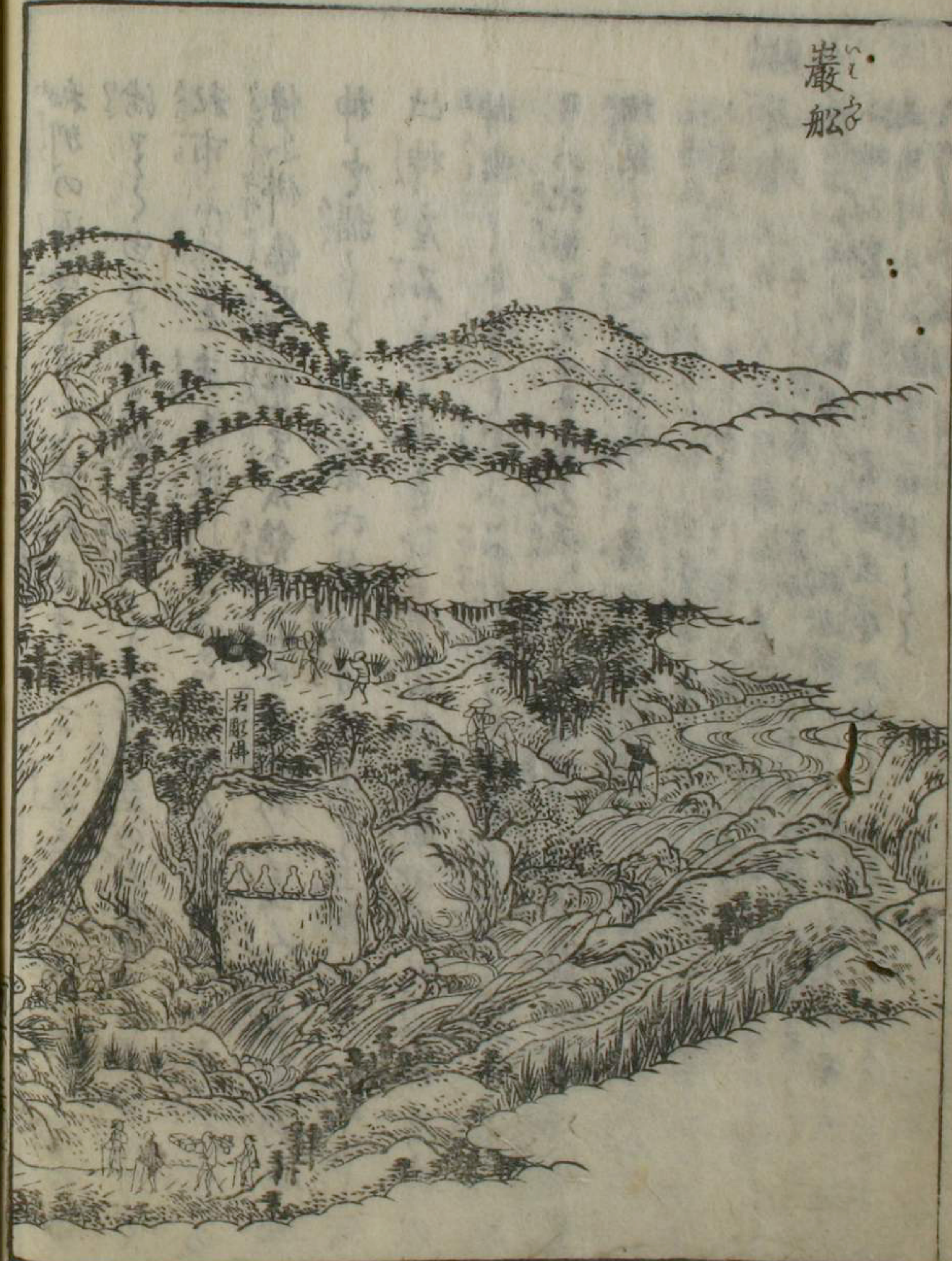


ちり花の
 地巻や
 春の七
 月の水
 龜天



牧方驛

は驛を
 幸之しく
 系舟より
 浪速へ通船
 又い西園の
 諸侯方
 更東奉勅
 の沢路
 なり
 馬百疋ふ
 飯盛女
 百人
 むらさき
 あつち



河内所

鮎返滝



妙見山

明星村の東にあり妙見山と云ふ

妙見神祠

妙見山にあり神祠あり

住吉神祠

星田村の中あり石祠の神解と云

星田寺

社頭あり三宮と稱す

八幡宮

石祠あり新宮と稱す

旗立松

八幡宮の社木の老松と云

星田尊蹟

河内志日星田村莊甲の宅後あり

星石

三ヶ所あり一ヶ所妙見山あり

衆盆女故趾

度登村あり傳説云衆盆女の宅趾なり

星田

神の方十町許あり

衆盆女

故趾は半古樹あり

星田

神の方十町許あり

衆盆女

故趾は半古樹あり

星田

神の方十町許あり

衆盆女

故趾は半古樹あり

星田
妙見



明光寺

打上村小あり天照山と号し大念佛宗
佐々木達寺小属也

辛尊阿弥陀佛

去日の他長を尺八寸又塔内小十三佛の石塔あり
又一の塔あり私治三年丁巳九月卯信と稱す

石寶殿

其の又迫辛は御小あり金網の壺大サを尺餘の物
其の地へ其の御小あり金網の壺大サを尺餘の物
山野を盗難に忍れ其地の主が宿坊辛尊寺
の極楽寺と号し道場は村小あり其塔内と云く徑く埋蔵を
八十塚 日村小あり由縁不詳

辛尊掛松

其の地へ其の御小あり金網の壺大サを尺餘の物
山野を盗難に忍れ其地の主が宿坊辛尊寺
の極楽寺と号し道場は村小あり其塔内と云く徑く埋蔵を
八十塚 日村小あり由縁不詳

普見山獅子窟寺

私市村の山獅子窟八町小あり
真言律宗

新後撰

静仁法親王撰るの巻を小籠に納りて折ふ
候りて厚かしく讀む可し

表をすりつる乃の巻をくそひとくみせ社をぬれり

権徳正教範

辛尊薬師佛

行基の他産像長三尺又頻頭盧弓瓜本堂小
安ん雨を祈るに靈應あり夏日早
懸の時は産像と熱返の湯小あり
行りて瓜祈ふ半一教日なり

獅子窟
寺



獅子窟寺
坂路

下の坂口村より
卒堂まで
八町の坂あり



獅子窟 卒堂の北あり中墓金剛が般若窟を移し
 龜山院 卒堂より坂路を所半許北あり祝王廟院記小
 其報恩の意小増公建するその形人 龜山院を山川
 金剛寺の三新小藏心金剛寺とい 浄金剛院南禪寺
 紀州高野山金剛峯寺あり 龜山寺北皇妃形人
 皇后墓 帝陵の側あり 龜山寺北皇妃形人
 鎮守 八幡宮 卒堂の北あり 金毘羅持現
 龍石 卒堂の奥三町あり 辨天石 洞の裡
 戒根泉 窟の中 天福石 一名大黒石坂路の
 玲瓏石 一名親石奥院の 無底洞 窟の奥の
 牛卧石 二王門の趾 清涼壇 方丈の上ふ
 虎嘯石 方丈の奥 寶篋印塔 當山の中ふ
 當山の記曰寺の主山蒼翠盤巖小く其躰獅子
 地上小踊る小背く洞窟を深遠にして後院のや公同く

吼聲こゑ一丈いちじょう震ふるふ小勢こせう髯ひげより佛殿ぶつだんを山腹やまはらふトく天河てんがと臨のぞみ東
の方かた系けい作しやくを遙とほくして西にしの方かた根城ねじょうを懸かむ山やまの系けい系けい画え牒だが淵ふち々
おかし奇き巖がん性せい石せき山さん巔てん小せう聳さかへく深ふか壑くお携たづみ松しょう竹ちく鬱ふさ密みつ也
して森もり沈しんより佛ぶつ聖せいの宅たくさる所ところ小せうあふすんを豈あやこの絶ぜつ勝しょうありんや
其その来き由ゆ弘こう考こうより昔むかし在あり後のち小せう角かく金こん剛かう山さん小せう居いりぬ路みちひいとん
遙とほくは山さん頭とう五ご彩さいの雲うん氣き立たつ瓜うりんく是これ正ただしく靈れい區く之の中ちゆう遙とほく
揚たかと飛としてさふ小せう房ぼうを榛しん葦い披ひれ巖がん址しを美うげ芽めと得とく
一日いちにち窟くわく中ちゆうに宴えん坐ざして首くび瓜うり橋はしく親おん見けんさる小せう是こ地ち変へんじて淨じやう瑠
璃るり世せい界かいとある爾そのち後のちは山さんを指さして藥やく昨せつぬ来きの淨じやう土どとん
聖せい武ぶ帝てい北きた涉せつ宇う小せう遠えんんが俗ぞく正ただ行かう基き勅しやく形かた瓜うり義ぎく梵ぼん刹せつと創さう
宸ちん且かつの立た基き小せう准じゆんじて四し隅ぐの峰ほう密みつを四し臺たいと標へうして山さんと名なを
中ちゆう臺たいとん後のち令れいぶく金こん剛かう般ぱん若じやく窟くわくといふ窟くわく小せう廣かう堂たう投たう
回かい瓜うり携たづみ小せう覺かく畫え棟とう巖がん密みつを照せう耀やうと又また經きやう藏ざう淨じやう樓ろう食じやく堂たう傍ぼう寮

暨および二に層そうの塔たつ婆ば鎮ちん守しゆ北きた神しん祠じ辨べん財さい天てん祠じ等とう次じ建けんく堂たうの左ひだり右みぎ小せう列れつ
又また一いち堂たうあり中ちゆう小せう聖せい德とく王わう後のち小せう角かく行かう基きの三さん像ざうと安あん外がい小せう二に金こん剛かうの口くち
設しやくく山さん場ちやう四し至しの結けつ界かい小せう名な寶ぼう篋けつ印いん塔たつ瓜うり造ぞう立たてく尚なほ山さんの鎮ちんとん山さん
同どう小せう鏡きやう若じやく巖がん德とく雲うん石せき大だい黒くろ石せき掛か後のち石せき鏡きやう石せき龍りゆう窟くわく等とうの靈れい蹟せきあり其その
僧そう房ぼう都とく十二じふに院いん其その後のち一いち百ひやく有あり餘あま茶ちやを磨まく天てん長ちやう中ちゆう弘こう法ぽう大だい昨せつ
は山さんに窟くわくく壇だん瓜うり立たてく佛ぶつ眼がん明めい妃ひの法ぽうと淨じやう凡ぼん三さん昧まい成じやう就じゆの時とき七しち曜やう
降くだりて山さん林りんに照せう耀やうと又また表へうして獅し子し寶ぼう冠くわん佛ぶつ母ぼ尊そん乃なり所ところ小
の左ひだり右みぎ神しん祠じと多おほく天てん河がの左ひだり右みぎ小せう散さん立たて抑おさ神しん龜き天てん平へいより文ぶん應おう
弘こう長ちやう小せう至しく既すで小せう五ご百ひやく有あり餘あま茶ちやと磨まく其その間ま茶ちや月げつ綿めん遊ゆうりて棟とう宇う
傾かた圮ひを適たて 龜き山さん上じやう皇かう王わう體たい不ふ豫よりてこれ瓜うり熊くま野や權けん現げん小せう禱たうる權けん現げん
夢ゆめ小せう告こく日にち聖せい躬こうの安あん康かう瓜うり保たもんと形かたは別べつ獅し子し窟くわくの藥やく昨せつ佛ぶつ小せう祈いの
登のぼり於是こゝに 上じやう皇かう車しや駕がとめぐして臨のぞ幸しやくく山さん至し誠じやう祈いの信しんりたる小
いさゞ幾いくさ形かたはくして皇かう疾じやく頓とん瘳しゆうを獻けん情じやう大だい小せう飲いん手て以もつ即すなはち有あり司し小

命じて重く殿廢を興に殿堂門廡煥然として一新に山下二里許小
行宮の故基あり今呼ぶ院田里觀音刹と云ふ又山右崩崖の下に
古石塔婆二基有り荒草涼燠の中に屹立其其一皇陵より其一
右后墓之殿后三百餘の星霜以歷く文祿慶長の騷擾小中て兵の
為小毀され金碧の區々として瓦礫の場やする寺存も亦少くく
官府小居り嗚呼素因碧海須臾不改も亦中々半を裁山の沙門
月潭は寺記と識して尚山小藏む

觀音寺 真言宗 龜山と號し一名千手寺
本尊如意輪觀音 行基の地むく大慶小引く諸堂魏々として
龜山上皇の神牌 本堂小安んじ地地の宮院田と云ふ小松子松子の
御祀小身へくく 龜山上皇熊野権現の御告小引く善見山へ
御幸はくく 御時以所改行宮と云ふ後小大徳の像小安んじ
二年の喜勅小引く本堂再興く坊舎あつくく 後二條院の寺嘉元
寺領も亦附く 森村小あり 龜山と號し大念佛宗
須弥寺 佐右末近寺に屬す

本尊阿彌陀佛 後醍醐天皇御願 觀音堂 千手大慈悲安んじ觀音の御願 長七寸
後世今の宗名

嬰兒山 寺村の東にあり名區之山中小乳母谷彌石等あり 善小松王
夫本 祠あり 歳旱の時狐禱るに驗あり 故小龍王ふくもく

儀示川 水源儀示村の山中より流く 寺村莊子傳を

水室古蹟 儀示村松村等延寺村の三邑あり 今よりくく 慶長
これ以用也と云ふ 今儀示村小

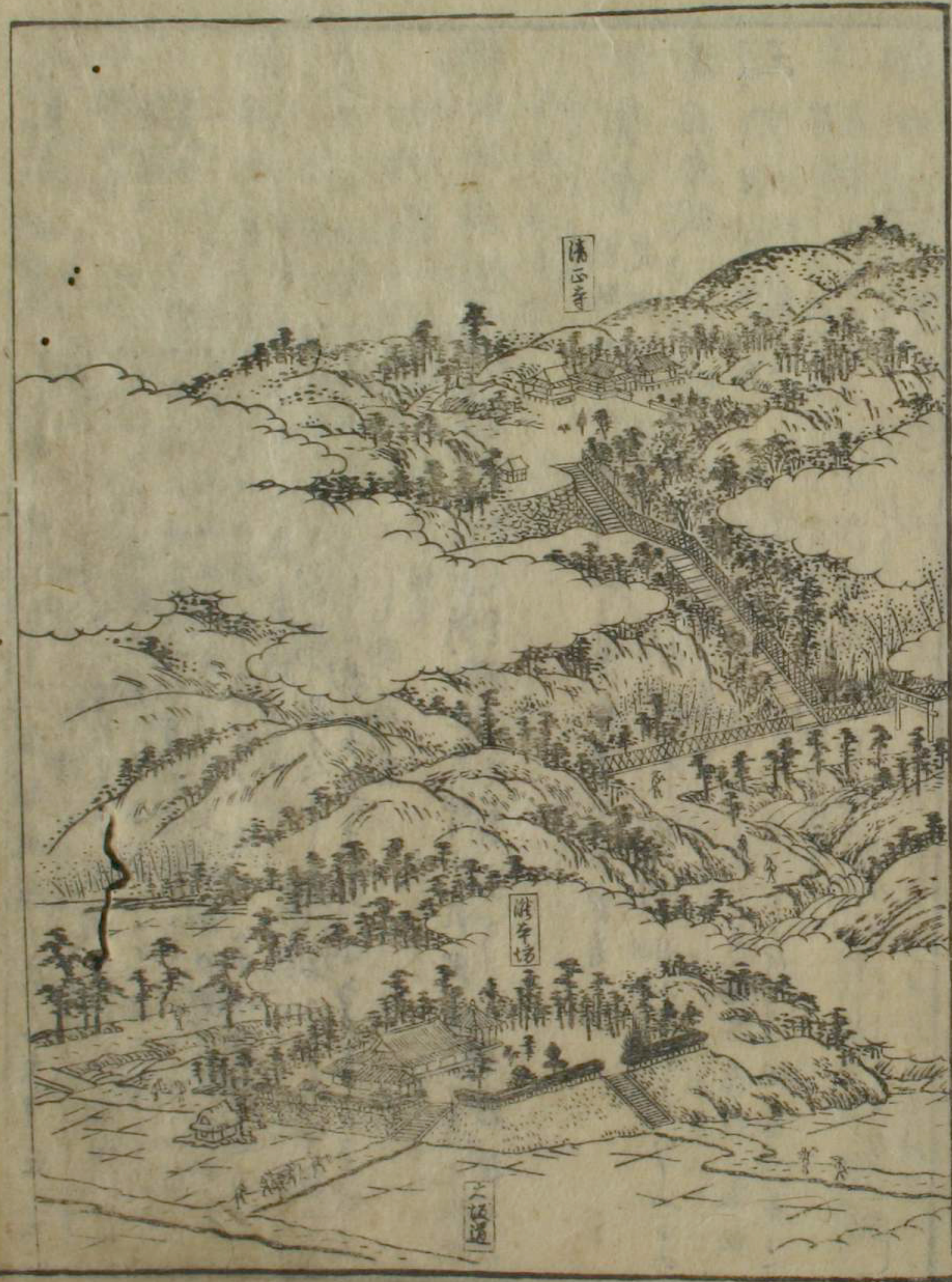
私部古城 松村天正年中 安見直政畠山高政を撰く 小
松村小あり 長壽山中号れ

光通寺 禪宗 本尊如意輪觀音 長七寸 開基別率和尚
南朝 後村上院の勅願所あり

長寶寺 郡門村 本尊十一面觀音 長七寸 詳

梅塚 郡門村 本尊 日村小あり 詳

中塚 莊子傳村 満塚 日村小あり 平塚 日村小あり 詳 皆荒塚なり



心寺 龍 倉治村の東五町 許しあり 一名倉治 龍 倉治村の東五町 許しあり 一名倉治 龍 倉治村の東五町 許しあり 一名倉治

交野山 倉治村の東五町 許しあり 一名倉治 龍 倉治村の東五町 許しあり 一名倉治 龍 倉治村の東五町 許しあり 一名倉治

機物神祠 倉治村の東五町 許しあり 一名倉治 龍 倉治村の東五町 許しあり 一名倉治 龍 倉治村の東五町 許しあり 一名倉治

觀音寺 村野の北あり 天野山と号し 奉正親着 定朝の住長三尺

津田古城 津田村の北あり 天正年中 廢 津田村の北あり 天正年中 廢

三宮 津田村の北あり 奉正親着 定朝の住長三尺 津田村の北あり 天正年中 廢

尾寺 土人元當麻を奉 護摩堂 不勅明王 奉正親着 定朝の住長三尺

奉尊十一面觀音 長武尺 護摩堂 不勅明王 奉正親着 定朝の住長三尺

河内文首始祖博士王仁墓 石標王仁之墓 奉正親着 定朝の住長三尺

總谷川 水原樹谷より 津田村の北あり 天正年中 廢

尊延寺 又五大尊依安 津田村の北あり 天正年中 廢

杉妙泉 津田村の北あり 天正年中 廢

明尾寺 土人元當麻を奉 護摩堂 不勅明王 奉正親着 定朝の住長三尺

奉尊十一面觀音 長武尺 護摩堂 不勅明王 奉正親着 定朝の住長三尺

河内文首始祖博士王仁墓 石標王仁之墓 奉正親着 定朝の住長三尺

國見山 倉治村の東五町 許しあり 一名倉治 龍 倉治村の東五町 許しあり 一名倉治 龍

小山墓 田口村の北あり 天長十年二月 仁明天皇の外祖母

安樂寺 田口村の北あり 天長十年二月 仁明天皇の外祖母

山田池 田口村の北あり 天長十年二月 仁明天皇の外祖母

大池 田口村の北あり 天長十年二月 仁明天皇の外祖母

大池 田口村の北あり 天長十年二月 仁明天皇の外祖母



持おつるま
 長栄を伝
 妻の眞
 コアえりる
 我事也
 継の
 根芥
 式
 丈判



雑
 取
 表色不
 暖氣
 苗代
 小池
 井池
 いろくの鱗
 近まるる里の
 童これと
 さでいうれ
 など

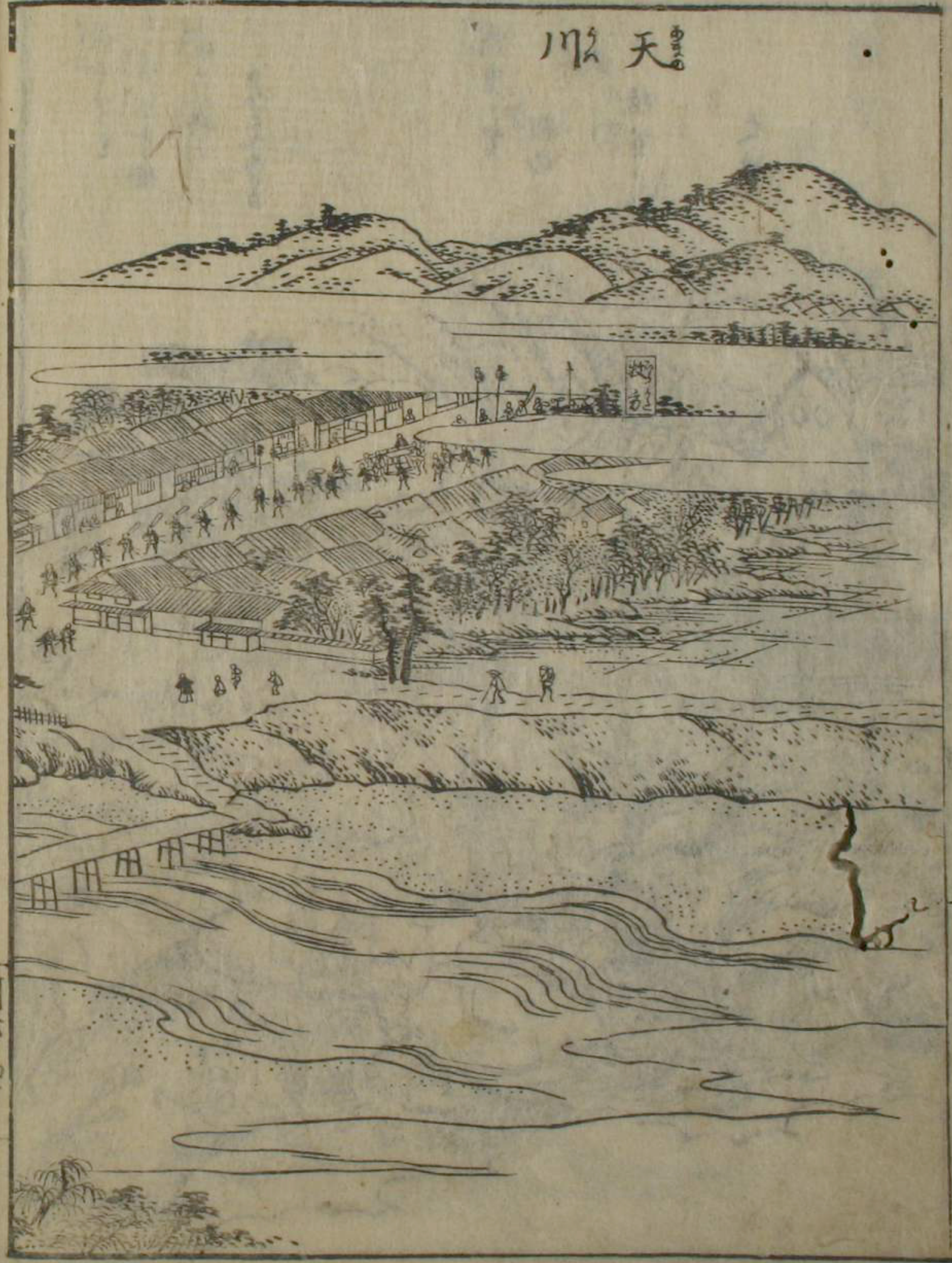


長門
 馬ヤ
 大正丸

左近衛中将公衛

新古
 加三
 可
 美
 渡の門
 月
 之部

天
 川



新後撰 最ゆるきもきこひきみりの子ありてはここの橋をたふし

續十 あつたつたせれふのまきあう見たりあそび

新千 物むいあかこのけりかをほく積子のゆか身てせはむ

日 ありてはここのまきあう中れはるさ送るふの橋れ月

新續古 若ゆれかたけけ子やがてまきあを所置れあつた日

鳥立原 交野の中ふあり土人 登羅太お祭とりし

百重原 交野原の一名おそく一武力云 和市場乃わくろく

車塚 交野の村ふあり惟喬親王清車塚らふ 祭壇あり古蹟かりとせ

和田寺 禁聖村ふあり醫王山解陀院と号れ 真言宗

本尊薬師佛 聖徳太子清淨長三尺六寸婦人妊身の時務れを安産 寺説云 尚寺開基を弘法之作して本尊を初撰別四天王寺小

左せし張大陣く小遷し終ふ其後貞觀年中 文徳天皇第

皇子 清和天皇れ清兄惟喬親王く小遷禰の時三足の維波瀲 院ふ飛入つて成を即これ狐塚小築く小祠を建る今名鎮守

これあり其後唐永の頃廢燕によりて棟黨和田新殿意源 秀再興に因茲和田寺を改む什寶小大陣真蹟の兩界曼荼羅

あり寺前に清淨橋あり初の樹を枯朽して柱絶たつと我圓へ 百濟王靈社 中宮村ふありは所の生土神とて例祭九月朔日くふいし

傳云延暦二年のそ 桓武天皇交野小遷禰一り百濟王 行宮所ふ供奉に其外利善。武鏡。元徳。玄鏡。明真。聖。隆。小。進。人

宮前敷賜ふ又西宮記云百濟王交野の樹授りて其 後多くく小居れ又右皇后の叔父橋朝臣清野の居居の 址あり天長六年十二月遷る

中宮池 中宮村ふあり 宇之木塚 日村ふあり由縁

長者故居 甲斐田村ふあり 佐傳云むり長柄橋ありこれり

河伯の鬚とせむこれを長者の人のくらうとて其娘婿成長く 括別よりけ里の長者の翁ふ婿ん其母戒一先て汝父

河六ノ四十二

物い... 父を... 人... 物と...
 延暦四年十一月壬寅天神... 交野の柏原に祀りて宿禰...
 賽と... 同六年十一月甲寅大納言藤原繼繩... 遺...
 天神... 交野小祀... 高紹天皇... 配享... 齊衡三年...
 十月大納言藤原良相を交野柏原に遣... 是上帝...
 郊祀... 後回原天皇... 配享... 壇上の古蹟... 小老...
 杉あり... 今交野の一本杉...

郊

日本後記云

延暦四年十一月壬寅天神... 交野の柏原に祀りて宿禰...
 賽と... 同六年十一月甲寅大納言藤原繼繩... 遺...
 天神... 交野小祀... 高紹天皇... 配享... 齊衡三年...
 十月大納言藤原良相を交野柏原に遣... 是上帝...
 郊祀... 後回原天皇... 配享... 壇上の古蹟... 小老...
 杉あり... 今交野の一本杉...

波激院古跡

波激院古跡... 村小あり... 權喬親王... 遊獵の時... 小頓宮...
 親若... 安... 真言宗... 五... 櫻... 堂... 今僅小...

碑銘

碑銘... 寬文元年十月... 山別波城主永井信別尚政の舍弟同修實守家...
 杉井吉通建之銘を向陽林子撰序文畧之

於戲波激... 境近王畿... 翠華雲靡... 白櫻雪飛... 吟以勸醉... 遊而忘歸... 在昔為盛... 中葉式微... 烟籠野水... 月鎖村扉... 遺蹤復旧... 花亦芳菲... 寬文元年辛丑十一月

土佐日記... 貫之土佐の任... 寛文元年... 君... 梅花...

其宮へ... 形... 乃... 乃... 乃...

之時又至矣夫大府東北隅一且相濶曰升祠
之固置巨社以華之東北隅一且相濶曰升祠
在焉豈其可募良工再儉乎哉民雲集於
於人徒博募良工再儉乎哉民雲集於
長七十年土本之事始大匠庶西室置相國
公之立蓋大府之事始大匠庶西室置相國
歲九千斛以壯其祠以乎哉使崇之小祝等
食焉豈盛往昔之祠以乎哉使崇之小祝等
之隣九盛往昔之祠以乎哉使崇之小祝等
廣壤荒蕪為其社隱也歷年之久而茲
寬政八年春本祠祝吾族子本親謀於九
復善繼未幾及往相之亦不之可謂之隱
也先是附庸大夫相之亦不之可謂之隱
今之東北則得之也夫相之亦不之可謂之隱
昔之東北則得之也夫相之亦不之可謂之隱
是外浪華者而再儉之何人所不於古則
可不在斯矣儀又成唯以九郎之邊人非
意

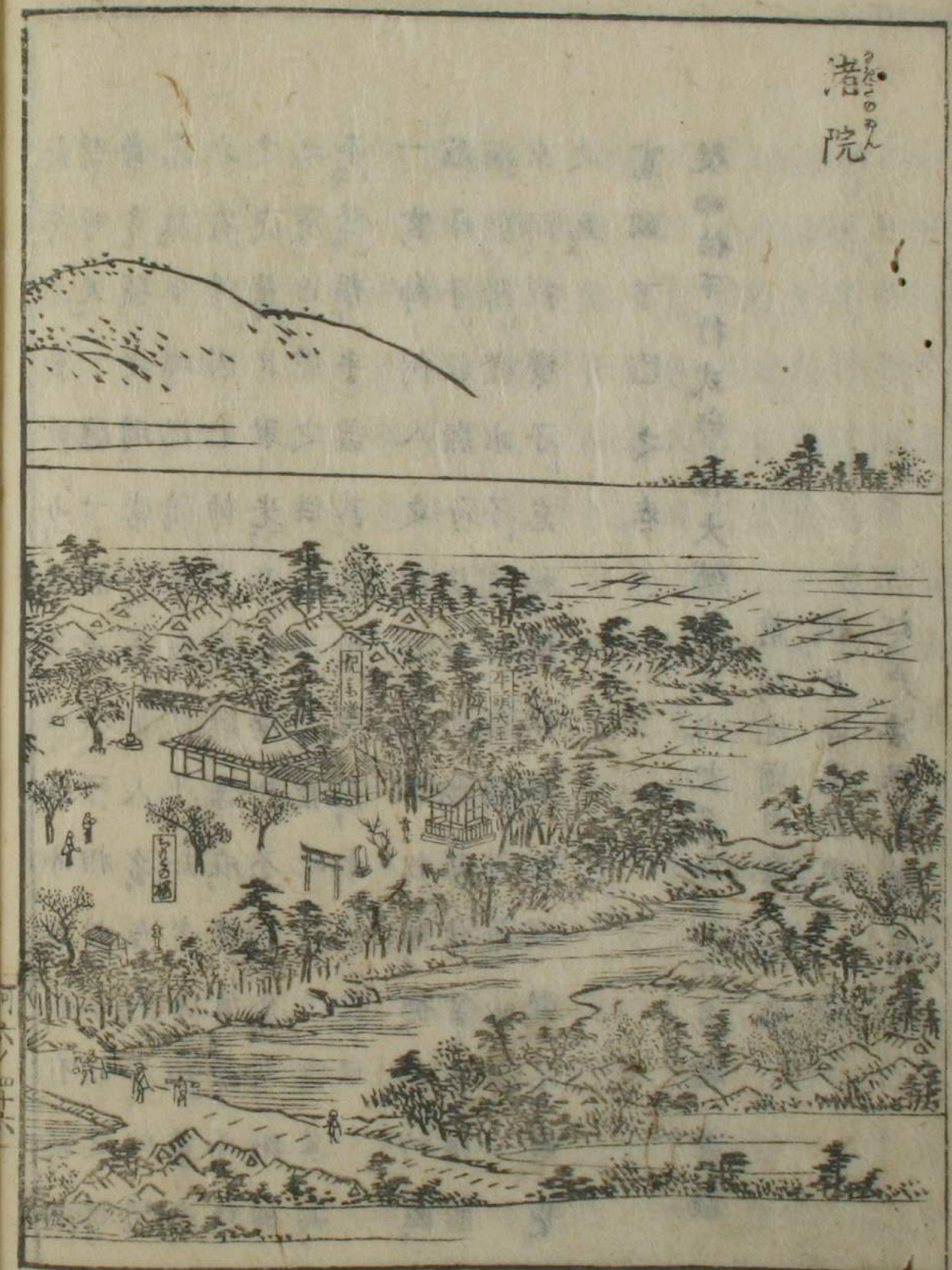
河六十四

修飾之費非少故至今且而後始有此
鳴呼夫一隱一顯未必可相無而隱之
常多顯之時常少乃世人多無而隱之
為故今此記也神之靈餘不者知有
之有戴其取光春秋祭不懈之則
之薦田圃哉其供廢猶降福乎哉
不降福乎哉其供廢猶降福乎哉
一宮神祠人之所知與松喬德身竹
隱而不顯顯而益始龍維伏雷靈維
雨能降穀水不盡補儉必時記以
京師經理營不怠補儉必時記以
之貽經營不怠補儉必時記以
寬政丁巳之春

從四位下行式部權大輔兼大內記菅原朝臣長親 篆額
前祠祝岡田臯 拜撰
伏見岡田宗興 建
江戸海保皋鶴 護書



弘安百首
 加こ此分所
 流の橋いく
 ちえて也
 新小島さん
 法平定園



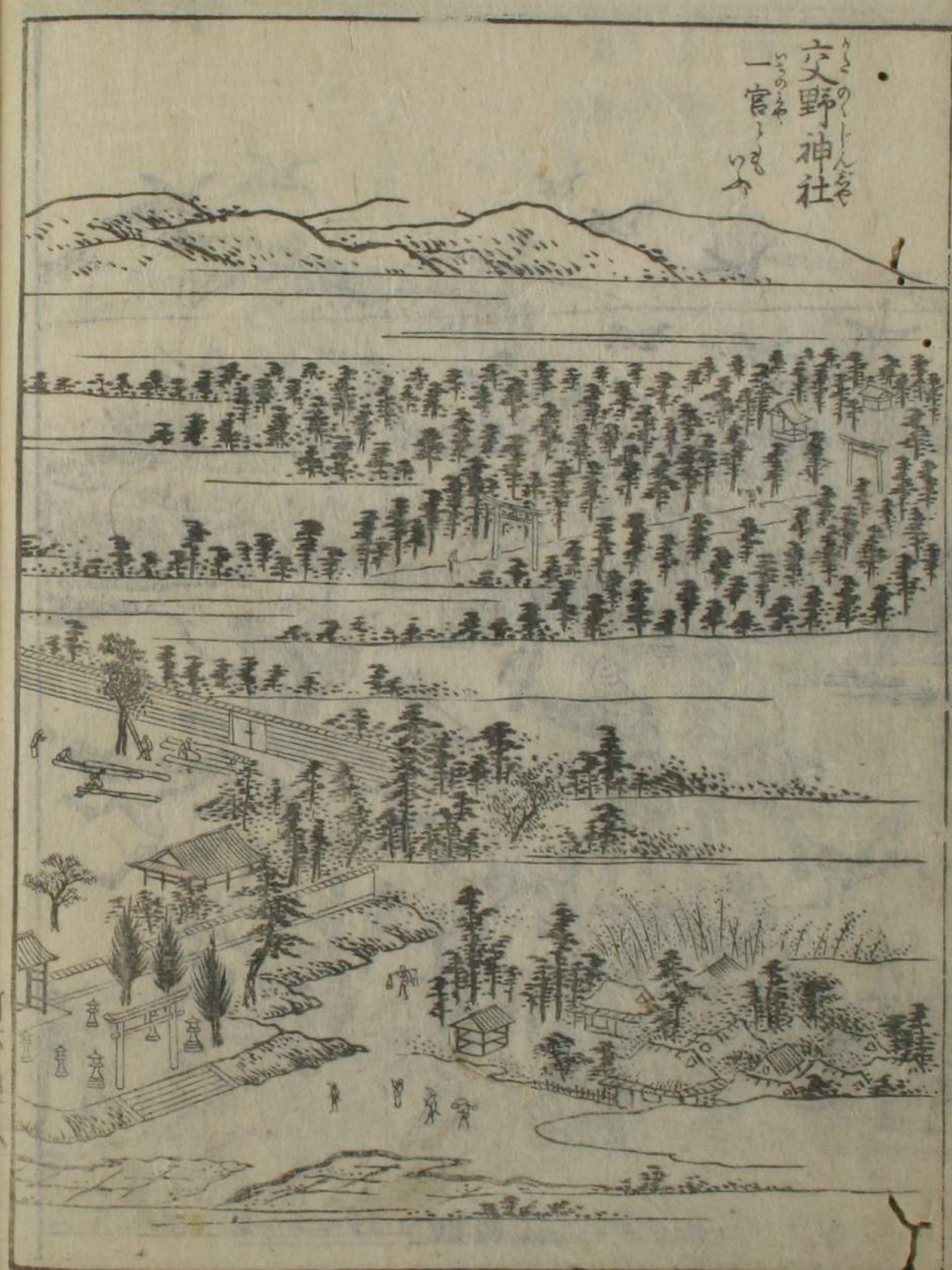
港院
うらこのりん

四十六



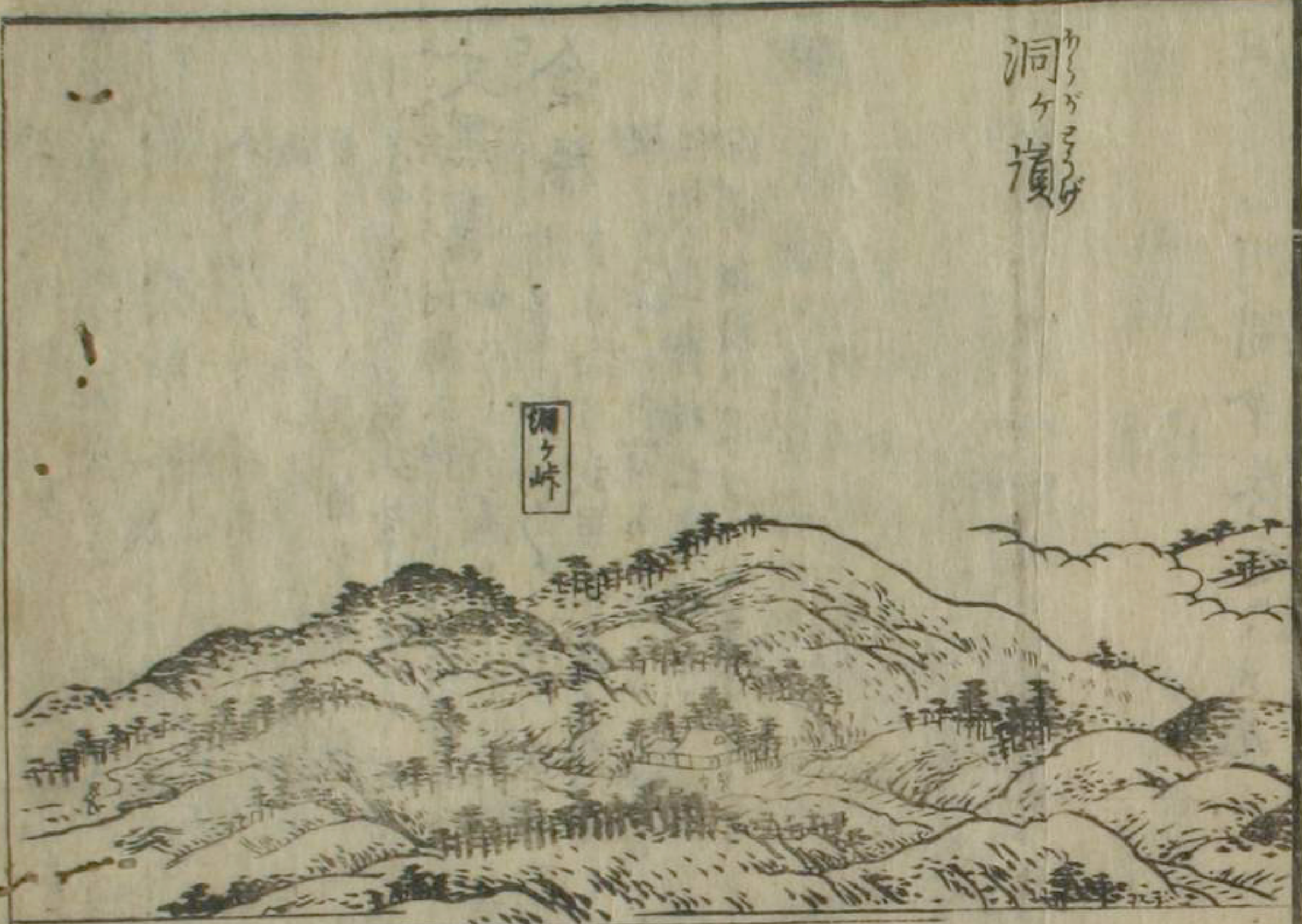
惟親遊
喬王獵



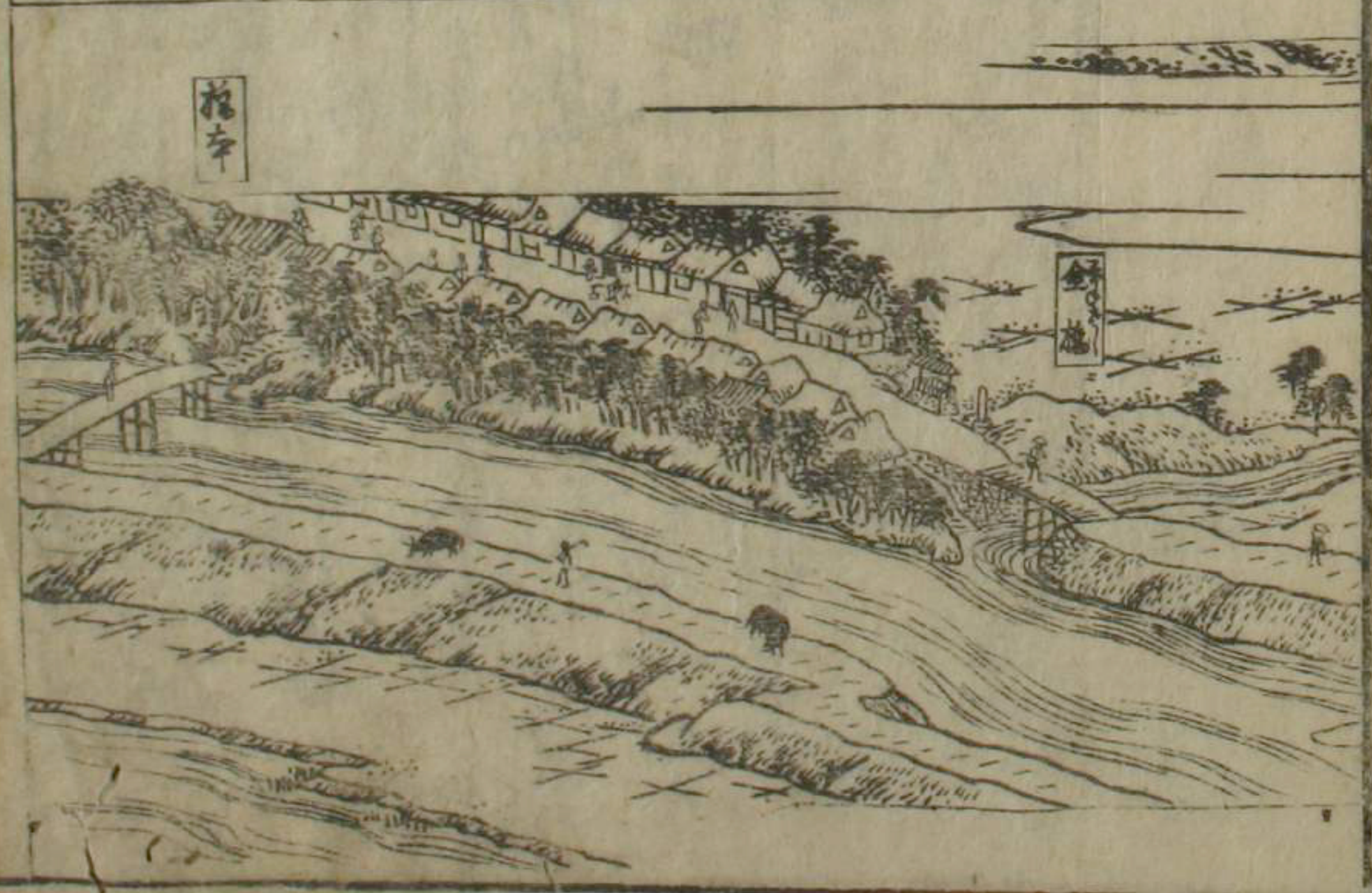


洞ヶ嶺

洞ヶ嶺



橋



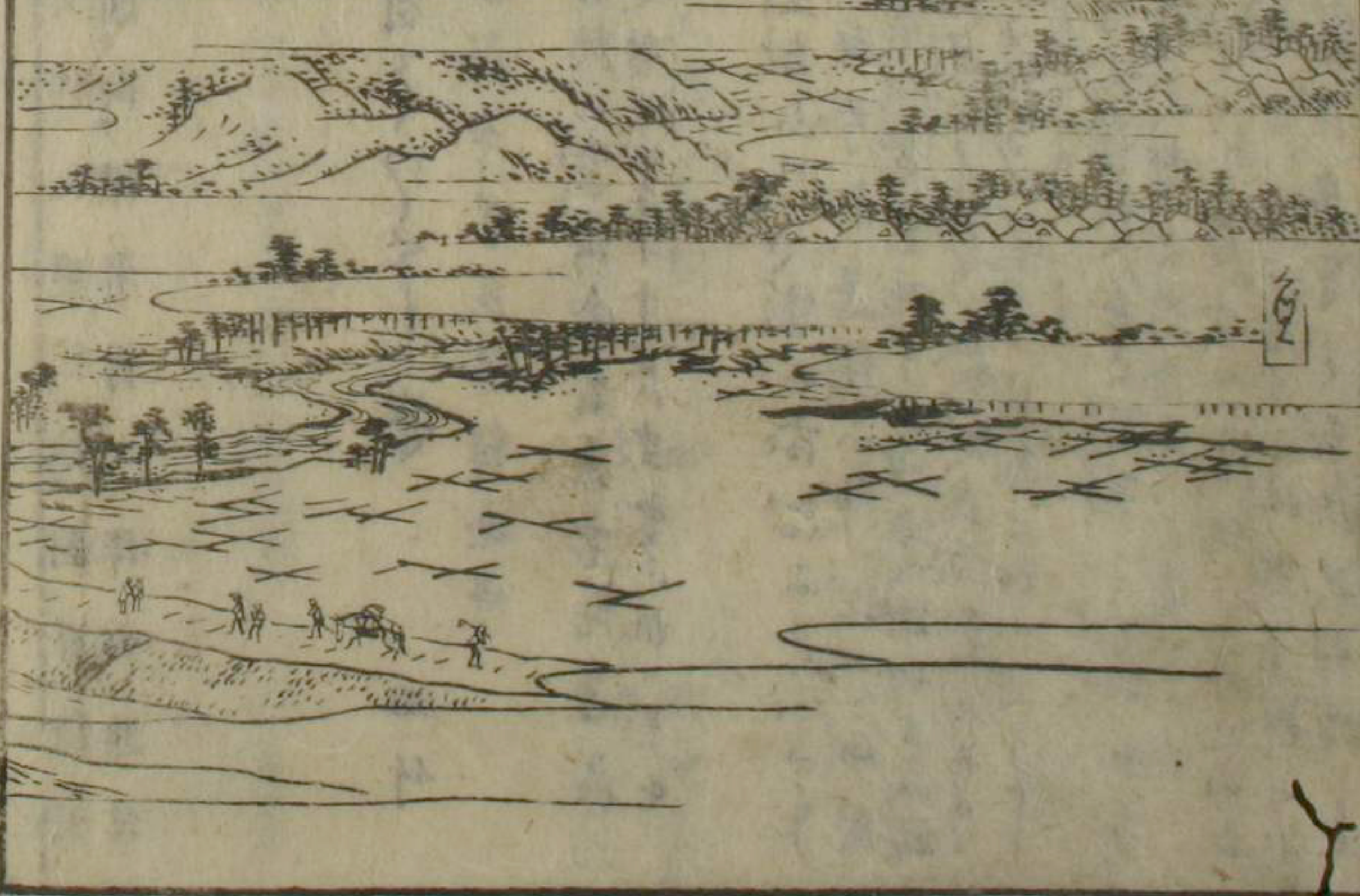
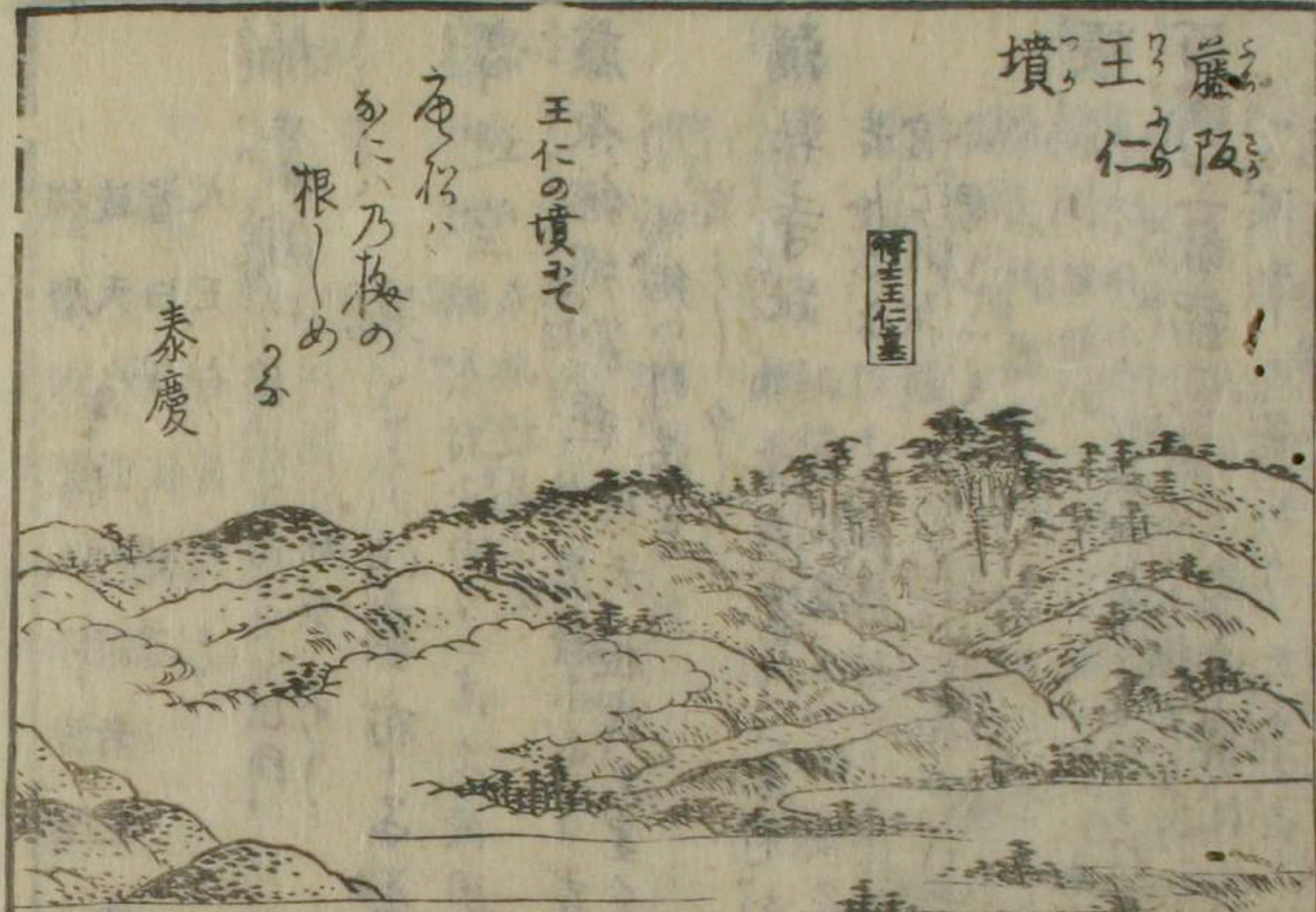
巖王墳
仁阪

巖王墳

王仁の墳

あはれ
あに乃根の
根しめ

奉慶



享和元 辛酉 歲冬十月

皇都書林

浪華書林

出雲寺文治郎

小川 多九衛門

殿 為八

高橋 平助

柳原 喜兵衛

森本 太助

らんがき
浪華書林

浪華
元

276

